

令和3年度

第59回 越馬徳治科学賞 表彰状授与及び助成金交付式

日時 令和4年2月16日(水)
13:30～14:30

式場 石川県教員総合研修センター大研修室

式次第

- 1 開式のことば
- 2 表彰状及び記念品等授与
個人表彰
功労者表彰
学校表彰
- 3 助成金交付
学校助成
研究機関助成
- 4 奨励金交付
研究奨励
- 5 あいさつ
石川県科学教育振興会会長 菱 沼 捷 二
- 6 来賓祝辞
石川県教育委員会教育長 徳 田 博
- 7 受賞者代表謝辞
- 8 閉式のことば

主催 石川県科学教育振興会

共催 石川県教育委員会

受賞者等の紹介

1 個人表彰

金沢市立田上小学校 教諭 **狩野 祐史**

金沢市立犀川小学校を初任に、野々市市立館野小学校を経て現在に至る。研究面では、越馬徳治科学教育研究奨励の受賞や石川県理科教育研究大会での発表実績がある。指導面では、理科担当教員として、科学作品コンクールの出品啓発と指導にあたるとともに、金沢子ども科学財団児童科学教室講師や子ども科学スタジオ臨時講師として児童の指導にあたった。また、ソニー科学教育研究会（SSTA）石川支部の事務局長として、SSTA中日本ブロック特別研修会石川大会の運営に携わった。また、「理科の学習」編集委員、金沢市小学校教育研究会理科部会運営委員等を務めるなど、理科教育の振興に貢献している。

金沢市立西南部中学校 教諭 **毎田 武志**

金沢市立清泉中学校を初任に、同額中学校、同医王山中学校、同小将町中学校、かほく市立河北台中学校を経て現在に至る。研究面では、全国中学校理科教育研究会での研究発表や、石川県理科教育研究大会等での発表実績がある。指導面では、理科担当教員として、科学作品コンクールの出品啓発と指導にあたるとともに、高峰賞応募生徒への研究指導にあたった。また、金沢子ども科学財団中学校サイエンスクラブ指導員や事務局次長として生徒の指導にあたった。さらに、石川県理科教育研究大会事務局長を務めるなど、理科教育の振興に貢献している。

石川県立金沢伏見高等学校 教諭 **寺澤 幸平**

石川県立七尾東雲高等学校を初任に、同津幡高等学校、同伏見高等学校、金沢大学大学院（内地留学）を経て現在に至る。研究面では、全国理科教育大会や北信越理科教育研究会での研究発表、石川県理化教育研究大会等での発表実績がある。指導面では、科学部顧問として部活動生徒の指導にあたるとともに、金沢子ども科学財団おもしろ実験・観察教室の講師や、津幡町シグナス児童科学クラブの講師として、児童生徒の指導にあたった。また、石川県高等学校教育研究会理化部会の理事や、石川県理科教育研究協議会の幹事を務めるなど、理科教育の振興に貢献している。

2 功労者表彰

金沢市立中村町小学校 校長 **河村 真吾**

加賀市立片山津小学校を初任に、金沢市立材木町小学校、同諸江町小学校、石川県教育センター（内地留学）、金沢市立米丸小学校、同指導教諭、金沢市教育委員会事務局学校指導課指導主事、同学校職員課管理主事、金沢市立内川中学校教頭、同新堅町小学校教頭、金沢大学人間社会学域学校教育学類附属小学校副校長を経て現在に至る。研究面では、全国小学校理科研究協議会研究大会での実践発表や、石川県理科教育研究大会での発表実績がある。また、「『見えないいきまりや法則』を『見える化』する理科授業」の執筆がある。指導面では、金沢子ども科学財団児童科学教室泉教室室長等として、児童への指導にあたった。また、「理科の学習」編集統括、日本スカウトジャンボリー天体ブースの講師等を務めるなど、理科教育の推進に貢献している。

白山市立笠間中学校 校長 松本 政彦

能都町立瑞穂中学校を初任に、門前町立七浦中学校、同門前中学校、上越教育大学大学院（内地留学）、志賀町立富来中学校、石川県教育センター指導主事、石川県立金沢錦丘中学校、津幡町立津幡南中学校教頭、かほく市立河北台中学校教頭を経て現在に至る。研究面では、石川県理科教育研究大会等での発表実績がある。また、石川県教育センター紀要「石川の自然」の執筆がある。指導面では、科学部顧問として、サイエンスチャレンジ等の参加生徒の指導にあたった。また、津幡町の小学校教員を対象に「実験・観察の研修会（年3回）」の講師を務めたり、白山市学校教育研究協議会理科部会の部長を務めたりするなど、理科教育の推進に貢献している。

金沢市立犀生中学校 校長 増江 雅人

能都町立能都中学校を初任に、金沢市立金石中学校、同紫錦台中学校、同高岡中学校、石川県教育委員会事務局学校指導課指導主事、同主任指導主事、野々市市立野々市中学校教頭、金沢市立高岡中学校教頭を経て現在に至る。研究面では、全国中学校理科教育研究会での発表実績がある。指導面では、金沢子ども科学財団中学校サイエンスクラブ部長等として、生徒への指導にあたった。また、野々市ライオンズクラブ夏休み親子科学教室の講師を務めたり、野々市市小中学校教育研究会の部長や石川県理科教育研究協議会の幹事等を務めたりするなど、理科教育の推進に貢献している。

石川県立内灘高等学校 校長 朝田 肇

石川県立加賀聖城高等学校を初任に、同津幡高等学校、上越教育大学大学院（内地留学）、石川県立小松明峰高等学校、石川県教育委員会事務局学校指導課指導主事、石川県教育センター研修課指導主事、同担当課長、同課長、石川県教員総合研修センター基本研修課課長、石川県立金沢伏見高等学校教頭、同志賀高等学校教頭を経て現在に至る。研究面では、石川県理科教育研究大会や北信越理科教育研究会での発表および研究紀要の作成がある。指導面では、科学部顧問として、部活動の指導や学校開放講座の講師として、生徒の指導にあたった。また、石川県高等学校教育研究会理化部会の事務局を務めるなど、理科教育の推進に貢献している。

3 学校表彰

金沢市立明成小学校

（校長 端 博 史）

当該校は、開校以来、金沢の理科・生活科教育における先進校としての役割を担ってきた。学校研究では、「自力解決力のある子どもたちの育成」を主題に掲げ、理科・生活科における「追究のストーリー」を通して、見方・考え方につながる「わざ」を子どもたちが自覚的に働かせることができるよう授業実践に取り組んでいる。令和2・3年度には、「金沢型学習スタイル実践推進事業」の研究推進校の指定を受けている。また、金沢子ども科学財団児童科学教室や日本宇宙少年団金沢支部中央分団の会場校として、児童の科学する心を育む拠点になっている。学校全体で理科研究を奨励し、夏季休業中に、3年生以上は一人一研究に取り組むよう指導している。その際、個別の相談にのったり、実験器具を貸し出したりしている。その結果、石川県児童・生徒科学作品コンクールや発明くふう展などで数多くの受賞者を輩出している。

金沢市立野田中学校

(校長 羽場 政彦)

当校は、創立72年目を迎える歴史と伝統のある学校であり、開校以来、科学に取り組む多くの生徒をサポートし、理科研究を奨励してきた。高峰賞では、これまで70回の歴史の中で、894名の受賞者中で当該校生徒62名が受賞している。科学研究では、積極的に金沢市中学校生徒理科作品研究発表会（口頭発表）や児童・生徒科学作品コンクールに出品し、数多くの受賞者を輩出している。また、学校研究では、「考える力を高め、学びを深化させる学習指導のあり方を求めて～『対話』『振り返り』の視点から～」として、対話的な学びのための指導法の実践やICT機器の活用を図ってきた。特に今年度は、1人1台の端末を効果的に使い、観察・実験の結果をグラフ化したり、グループの考えを意見交換したりして、思考力や表現力を高められている。

石川県立金沢桜丘高等学校

(校長 正村 泉一)

当校は、平成24年度より「いしかわニュースーパーハイスクール」に指定され、理系の牽引役となるコースとして2年次より自然科学コース1学級を設定している。石川県のSSH課題研究発表会には平成23年度にアクティブサイエンス部が、平成25年に自然科学コース1班とアクティブサイエンス部1班が参加、平成26年度からは自然科学コース6班が参加し、研究成果を発表している。また、研究活動としては、平成27年度から県内の高校理科部が参加している「いしかわ高校生物のつどい」「石川県中学・高校生徒物理研究発表会」「石川地区中学高校生徒化学研究発表会」において発表をしている。令和2年には化学研究発表会の結果をもとに、令和3年度の全国高等学校総合文化祭自然科学部門出場を推薦されるなど、科学研究において多方面より高い評価を継続して得ている。

4 学校助成

志賀町立志賀小学校

(校長 前田 倍成)

志賀町立志賀中学校

(校長 宮下 裕樹)

石川県立志賀高等学校

(校長 仁八 潔)

令和4年度に志賀町で開催する、第59回石川県理科教育研究大会の公開授業担当校として、小・中・高等学校をつなぐ理科教育を積極的に推進している。

5 研究機関助成

石川県教員総合研修センター

(所長 藤井 直樹)

科学教育の充実に向け、科学教育担当教員の指導力・実験力向上のための研修を実施し、科学教育の振興・発展に努めている。

6 研究奨励（※は研究代表者）

中学校理科の「見方・考え方」を働かせるための効果的な1人1台端末活用に関する研究

金沢市立清泉中学校 教諭 中村 慎*

金沢市立清泉中学校 校長 嶋 耕二